



意欲的に勉強会も開催。右端は平井氏
(1月16日・沼田公民館)

一人暮らしなどのお年寄りを住民が見守る―広島市の高齢者地域支え合い事業が、伴学区で検討されている。戸山・伴・大塚地域包括支援センターが、昨年九月に提案した。社協や町内会連合会、民児協、女性会、老人会が勉強会も開いた。三月から代表者による準備委員会が始まる。薄れる地域の結びつきをつむぎ直す力も、超高齢社会に向けて試されている。

伴学区で見守り事業を検討

超高齢化へ試される

近隣の絆

先行する安佐南区の安西学区や長東西学区の報告を例にすると、見守りの仕組みはこうなる。

一人暮らしや要援護などの見守り対象のお年寄りを募る。見守る住民も近隣から募る。住民はお年寄りを毎月訪ね、困り事も聞き取る。地域包括支援センターが情報を管理し、関係者で共有する。

一月に三回、五団体合同で開いた勉強会は、これからの地域の取り組みについて学区全体で共通の理解を得ようと企画された。少子高齢化が進む中、援護を求めるお年寄りが急増する。厳しい財政下、公的なサービスも細る。将来、地域で孤立しかねない不安を持つ、お年寄りをどう支えるか。識者や行政担当の報告から厳しい現状が伝わった。

広島市の高齢者見守りは昨年九月現在、二十六カ所で実施している。安西学区のアンケート結果では、お年寄りの登録者から「親類でもできない。ありがたい」「協力員に負担をかけ、プレッシャーを感じる」。見守りの協力員から「近所とよく話すようになった」「どの程度をしてよいか分からない」などの声があった。

③報告・相談



協力員は毎月報告する。専門のスタッフが支援する。

②声掛け・見守り



協力員がお年寄り宅を訪ね、声かけ。相談に応じる。

①登録(同意)



見守ってほしいというお年寄りが同意し、登録する。

高齢者見守りの仕組み

着々と快適な居場所づくり

★ロコモ教室を自主運営

昨年八月、地域包括支援センターから「ボランティアすみれ」が運営を引き継ぎました。毎月第二、第四金曜日の午前十時半から一時間、老人いこいの家で川下巧インストラクターが指導、約七十人が参加します。参加費二百円(一回)の集金と受付、音楽などの手伝いを十人ですんでいます。

何組かのご夫婦や男性の姿も見られます。無理のない運動で



自主運営で軌道に乗ったロコモ体操教室

★モデル事業に2サロン

伴学区に広がるお年寄りの交流拠点サロン。開設十年余のさわやかサロンとわいわいサロンが広島市の平成二十八年度サロン運営モデル事業に選ばれました。

さわやかサロンの広陵地区と四団地に坂が多く来場は大変。そこで遠方のタクシー相乗りに助成します。金高美佐子さん(八六)は「自分で運転が難しい年齢になったので助かる」と

楽しく、健康寿命を少しでも長くが目標です。皆さん張り切つて、頑張っています。伴・伴東・大塚・その他の地域からも喜んで来られ、コミュニケーションの広がりも目に見えて嬉しい限りです。今後一つでも皆さんの役に立てること―私たちも一同元気で活動できるように念じています。

(ボランティアすみれ代表 横更 十三枝)

★いこいの家管理で高評価

沼田老人いこいの家は、広島市が昭和五十四年開設。伴社協が平成二十二年、管理を委託。Aランクの管理運営と評価され、二十八年度の利用者も1万6千人の目標を突破しました。



さわやかサロンの参加者

喜んでいきます。三城田・伴中央地区のわいわいサロンは、お年寄りから「話がよく聞こえない」と注文があった会場の音響機器を改善しました。広島市はサロン助成(各五万円)を二十九年度から介護予防事業として継続。笑顔の交流による健康寿命の伸長も期待しています。



いこいの家の仮設棟



いこいの家の旧棟

三十 年春に開館する「沼田合同庁舎」(二階入居)の建設計画に伴い、建物は解体へ。昨年十月五日に仮設棟に移りました。当初バタバタしましたが、今は風呂、談話室等の利用も増えています。

お年寄りの快適な憩いの場づくりに努め、講師を招いてのお話、昔懐かしい映画の上映など毎月「いこいの家サロン」も開催。お気軽にご来館ください。

(総務部長 大津 信之)